

令和8年度第1回岡山県立博物館協議会議事概要(要旨)

日 時 令和8年10月1日(木) 13:30～15:30

会 場 岡山県立博物館 講堂

出席者 委 員：岡野議長、三田副議長、仲原委員、辻田委員、細川委員、美咲委員、青山委員、
富山委員、大久保委員、島村委員、宗宮委員、鳥井委員

博物館：江草館長、内池副館長、坂本総務課長、重根学芸員、松井学芸員、平田学芸員、
馬野学芸員、山本学芸員、中村主事

文化財課：加藤課長

欠席者 忠政委員、明楽委員、伊勢崎委員

1 開 会

江草館長あいさつ

2 議 題

- (1) 令和8年度事業について
- (2) 令和9年度展覧会計画(案)について
- (3) 長期展覧会計画(案)について
- (4) 第3次岡山県立博物館中期目標の達成状況について
- (5) その他

【委員からの質問(回答)・意見・提案・要望】

議題(1) 令和8年度事業について

①後楽園出口付近に設置されたデジタルサイネージの案内表示は、現在日本語のみか。外国人来館者が増えているため、海外の方にも伝わる表示や対応があるとより効果的だと考える。

⇒現在は日本語のテキストと展示風景や資料の写真で運用している。外国語対応の必要性も認識しており、今後、できるところから外国語対応も行いたい。

②博物館だけを目指して岡山に来る方は少ないと思うので、後楽園入園者の取り込みが重要であるとする。先ほど、後楽園を散策してきたが、博物館の展示について園内放送で案内しており、デジタルサイネージと併せて後楽園来園者への働きかけができています。今後は、デジタルサイネージの外国語対応も期待しています。(意見)

③入館料について、テーマ展260円、特別展460円となっているが、収入確保の観点から値上げしてもよいのではないか。

⇒テーマ展260円をベースに、特別展は他館等から借用し、特別な展示を行うので、200円加算し460円としている。条例で定められた上限には達しておらず改定の検討余地はあるが、まずは年間入館者数5万人目標の達成を最優先とし、現在は現行料金を維持している。

④テーマ展が 260 円を 300 円、特別展が 460 円を 500 円にしたところで、影響はあまりないと感じるが、今年度 5 万人を達成できそうということであるので、後半に期待している。
(意見)

⑤収益という面で、入館料を上げる必要性も分かるが、後楽園の入園料が 500 円で、博物館の入館料が 460 円なので、セットで 1,000 円以内に収まり立ち寄りやすい料金だと思う。
また、刀剣を展示すると、県外からの集客力が高いと聞いた。SNS 発信にも注力されているので、さらに認知が広がるよう期待している。(意見)

議題(2) 令和 9 年度展覧会計画(案)について
質疑等なし

議題(3) 長期展覧会計画(案)について

⑦展覧会の準備は 1 年以上かかり、かなりの労力を使っているのだろうと思う。例えば、宇喜多秀家の大河ドラマ化や万博の岡山開催など、将来的な大型イベントを想定した「仮想年度計画」を組んでおけば、いざという時に即座に活用できるのではないかな。

⇒一から全てを急遽準備するのは難しいため、1 章ごとの小編成の展示内容をそれぞれの学芸員がパーツとして蓄積している。イベントや外部の動きに合わせてそのパーツを組み合わせ、展覧会内容を組み立てていくような体制を整えている。

⑧造山古墳や吉備国の歴史など、岡山ならではの古代史コンテンツへの機運をさらに高めてほしい。新発見や発掘成果を交えた展示企画を検討してほしい。

⇒1 階常設展示室のパネル刷新や展示内容の見直しを検討しなければならないと感じている。古代史を含めた展示の充実に努めてまいりたい。

⑨誰をターゲットにした展示なのかで、入館者数が変わると思う。岡山の見所をクローズアップされるものが必要ではないか。研究しているものも大事だが、一般の来館者向けに、教科書や昔の暮らしで目にしたことがあるような「身近で親しみやすい視点」を取り入れた展示も必要ではないか。

⇒一般の方が分かりやすい解説や、展示室で動画を流すなど展示構成への工夫を重ねていく。また、小中学校の副読本への画像提供など、教育現場と連携した周知や活用にも課題があるので、積極的に取り組んでまいりたい。

⑩外国人来館者はどのような展示に反応しているのか。

⇒甲冑や仏像、古文書などに関心を示される方が多いが、国もさまざまであり、興味も人によって異なり、一概にどれが関心が高いかを特定するのは難しい状況である。

⑪現在の特別展では、ジュニア学芸員講座の参加者が考えた説明があり、講座と展示が繋がっている。講座に、歴史を志す生徒の探究へのアドバイスもしてもらえるとよい。（提案）
また、展示の説明については、日本語、子どもが作成したもの、外国語となると多数作成しなければならない。外国人来館者が増えているので、多言語対応としてイヤホンガイドや解説アプリなどの導入は可能か。

⇒音声ガイドや自動音声の導入については、外部委託も考慮しながら、負担や運用面を含めて今後の課題として研究していく。

⑫現在の特別展は、展示品に偏りがなくよく考えて構成されていると感じた。

展示の説明は多言語対応にはなっていないが、翻訳アプリの使用は可能か。アプリを使用するために、スマートフォンをかざしていると写真撮影と間違いやすいのではないか。

⇒翻訳アプリを使用していただけのように館内 Wi-Fi を整備しており、Google レンズ等を利用して鑑賞されている。確かに写真撮影と見間違えることもあるので、今後の課題であると感じている。

⑬来館者が SNS に写真を投稿することで広報効果が高まるため、撮影可能な展示や特典を増やしてはどうか。撮影禁止の主な理由は何か。

⇒撮影禁止の主な理由は所蔵者・所有者の許諾条件によるものである。現在の展示では所有者の協力を得て甲冑や刀剣のフォトスポットを設置した。今後も所有者の意向を尊重しつつ、SNS での拡散効果とのバランスを考慮して取り組んでいきたい。

⑭フランスからの誘客促進を図っている。海外からのツアー団体等で、事前に予約を行えば学芸員による解説ガイドを受けることができる仕組みはあるか。ツアーには通訳も同伴しているので、多言語対応になっていなくても問題はない。

⇒現在も外国人だけでなく、日本人に対しても事前に連絡をいただき、可能な範囲で対応している。

⑮1 階は常設展で 2 階はテーマ展・特別展と、1 階展示室と 2 階展示室が分離しているように見える。特別展では、2 階展示室だけでは入りきらない場合もあると思うので、全館を活用した展示や、1 階と 2 階で関連資料を連動させるような工夫はできないか。例えば、来年度の古地図の展覧会で 2 階に資料を展示し、1 階は測量器具などを展示するなど、1 階と 2 階を連動させてはどうか。

⇒搬入・展示替えの人員・日数の制約がある。ただし、1 階展示室に関連する古文書や道具を展示して上下階でストーリーを繋げるなどの連動は可能であり、今後はそのような観点も意識して企画を進めてまいりたい。

議題（５）その他

⑩アンケート回収率向上のため、スマートフォンや２次元バーコードで回答できる仕組みを導入してはどうか。

⇒館内でも導入の検討をしている。紙のアンケートと併用しながら、回答しやすい工夫に努める。

⑪学芸員による展示解説が非常に分かりやすく好評であるため、より多くの人が聴講できる機会を増やしてほしい。（要望）

３ 閉 会